

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	公益財団法人山口市文化振興財団
施設名	山口情報芸術センター[YCAM]
内定額	1,560 (千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		300	299
年間事業本数（※1）	主催事業	27	24
	公演事業	6	6
	（内、本助成対象事業本数）	0	0
	人材養成事業	5	5
	（内、本助成対象事業本数）	0	1
	普及啓発事業	10	9
	（内、本助成対象事業本数）	1	1
	その他 内容：映画上映事業等	6	4
貸館日数	ホールごとの貸館日数	128	107
	ホール名：スタジオA 座席数：455	3	2
	ホール名：スタジオB 座席数：平土間	0	3
	ホール名：スタジオC 座席数：100	125	102
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	93,804	72,775
	公演事業	2,303	3,682
	人材養成事業	6,312	6,825
	普及啓発事業	55,689	40,529
	その他 内容： 映画上映事業等	29,500	21,739
	貸館事業入場者・参加者数	3,931	4,477
	その他 内容：貸会議室	1,412	1,424
	計	99,147	78,676
施設の利用率(%)		100.0%	100.0%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設(美術館、図書館等)のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※4）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	6	10	2,303	83.0%	4	2	0	0	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	0	0	0	－	0	0	0	0	0	0	0
	貸館公演（※3）	0	0	0	－	0	0	0	0	0	0	0
	計	6	10	2,303								
令和6年度	主催公演（※1）	6	10	3,682	84.0%	3	2	0	0	0	0	1
	共催・提携公演（※2）	0	0	0	－	0	0	0	0	0	0	0
	貸館公演（※3）	1	1	－	－	0	0	0	1	0	0	0
	計	7	11	3,682								

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。
※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

- ・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業番号	事業名	入場者数	入場率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業	非該当事業。	非該当事業。	非該当事業。	非該当事業。		
人材養成事業	1. ワークショップの応募者数 2. ワークショップ参加者の満足度 3. ワークショップ指導者による評価	1. 募集定員に対する充足度50%。 2. アンケート回答者の80%以上が「満足」と回答。 3. インタビュー等で概ね高評価を得る。	1. 募集定員に対する充足度25%。 2. アンケート回答者の100%が「満足」と回答。 3. 両名の講師より講評にて高評価を得ることができた。	1. 募集定員20名募集に対して参加者は5人であり、充足度25%となった。その要因は本企画が「ハードルの高いイベント」として受け取られていた可能性があり、今後は、市内の若手ダンサーへの継続的なヒアリングを通じてニーズを把握しながら、募集条件や企画設計の段階で心理的・実務的ハードルを下げる工夫を取り入れていきたいと考える。 2. 目標満足度80%に対し、参加者全員が「満足」と回答し、高評価を得ることができた(アンケート集計結果より)。このワークショップは、笹本龍史氏(ダンサー／振付師)とRion Watley氏(ストリート・ダンサー／コンテンツボラリー・ダンサー／ムーブメントの演出家)を講師に迎え、山口県在住のダンス経験者、映像編集に興味を持つ20代の参加者たちがチームを組み、AIも使用したダンス映像を撮影・編集し作品を作り上げた。こうした3日間の密度の高いワークショップを行うにあたり、今回3回目を迎えるYCAM Dance Crewにおいて、キュレーターやYCAM内部エンジニア集団である「YCAM InterLab」がこれまで培ってきた知見を活かすと共に、さらには、初対面の参加者同士でも協働しやすいアットホームな雰囲気づくりをするなどの環境づくりが、高い満足度につながった要因と考えられる。 3. 講師から高評価を得ることができた(講評より)。AIも取り入れメディア・テクノロジーでダンスをパワーアップするという密度の高い創造的なワークショップとすることができたのが、その要因と考える。		
普及啓発事業	1. 事業の入場者数 2. 事業の新規来館者数 3. 事業の入場者の反応	1. 目標入場者数500人を達成。 2. アンケート回答者の27%以上が「初めての来館」と回答。 3. アンケート回答者の80%以上が「大変良かった」あるいは「良かった」と回答。	1. 入場者数401人。 2. アンケート回答者の9%が「初めての来館」と回答。 3. アンケート回答者の63%が「大変良かった」あるいは「良かった」と回答。	1. 目標値500人に対して、入場者数401人で、80%の達成率となった(アンケート集計結果より)。 2. 目標値27%に対して、実績9%で、33%の達成率となった(アンケート集計結果より)。 3. 目標値80%に対して、実績63%で、78%の達成率となった(アンケート集計結果より)。 上記1～3は最終的な目標達成には至らなかったものの、本事業は、計画どおり音楽文化や音響技術の専門家である登壇者らが、YCAMのスタジオAという音響に優れた空間の中で、解説を交えてさまざまな音源を一つの文脈に沿って紹介する、レクチャーパフォーマンス形式のイベントを実施した。クラブの無い山口市において、高音質の音響を楽しみたいというニーズを汲みつつ、音響表現の可能性に触れ既存の音響環境では聞き逃してしまうような音の細部に触れる、学習効果の高いイベントとなった。		

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

＜人材養成事業＞ ワークショップ参加者の満足度の高さはアンケートの以下の記述からも伺える。 －「ダンスから撮影映像まで、3日間で学ぶことが計り知れないほどあって、本当に密度濃く楽しいワークショップでした！後悔なく全力でやりきれました！」 －「今後も活かしたいことは何か一つのものを作るときに人や物、機材、自分の対象物をまずは知ろうとすること。自分の分野とは全く違う物と人との初めましてを通して、意外と感覚や自分だけの解釈で繋がったような気になっているだけだということに気付かされた。全く知らない分野との交わりの中で、時間がなくとも、できる限りじっくり見て聞いて、知る。ということ、何事においてもその土台は無視できないと思う。テーマでもあるダンスでテクノロジーをどうアップデートするかを考えながら、一つの作品を作っていく過程を味わえました！今回学んだこと(ダンス、編集、映像、AI)を通じて表現をさらに追求していきたいです！」 －「個人的にはダンサーとしてこのワークショップが、映像という分野に触れるきっかけになったこと、嬉しく思います。今回はiPhoneを使った事もあり、映像作品を作るということがすごく自分の身近にある感覚に変わり、この3日でもふとiPhoneで人の身体、物など取りたくなる、そんな気持ちの変化も嬉しく思っていました。」 2名の講師より以下のような高評価を得ることができた(講評より)。 －「参加のハードルが高かったにも関わらず、参加してここまで作品をつくれるっていうことは大変なこと。ダンサーと映像は、役割が分かれていることが多いがその中でたくさんの気付きがあったのでは。ワークショップは、実施後どう活動に繋がっていくかというのが重要なので、この後の皆さんの今後の活動がとても楽しみです。」 －「いろんなジャンル、世代が集まってチームでものづくりするということはとても重要なこと。3日間で一つの作品を作り上げられたということは、自信にしていいたいと思う。プロの仕事に匹敵するくらいのことを学んでくれてよかったです。」 ＜普及啓発事業＞ 近年、欧米を中心に増加傾向にあるリスニングイベントを、日本音響家協会が運営する「優良ホール100選」に選出されたホールであり、サウンドインスタレーション作品の発表などにも使われる当館のスタジオAで開催することで、高いクオリティの体験を来場者に提供した。多様なテーマに基づくプログラムの豊富さから出演者がキュレーターからDJ、エンジニアなど多岐に渡っており、出演者のバックボーンの多様さに比例して、「音」「音楽」に関する広範な関心を持つ人々が集まる、創造性・企画性の高い事業となった。 (以下、アンケート自由回答より)。 －「文学的・民族学的な話もありとても興味深く、楽しかった。」 －「音響がよく、音の粒が聞けた。」 －「最初はこんな音楽もあるのかとびっくりしたが最後は、まだまだ聞きたい気持ちになった。貴重なレコードをたくさんありがとございました。」 －「最新の音響設備に興味あり参加させていただきました。大変勉強になりました。10/11.12全て参加します。脳波の活性化が図れた。」 また、会期中は国内の音楽レーベル＋レコードショップが集まり物販をおこなったため、ただ音楽を聴くだけではなく、音楽を集める、音楽について話すという裾野の広さも担保した。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
1. 有償ボランティアスタッフ(サポートスタッフ)の数	1. 110人以上。	1. 195人(令和6年度末時点)。	1. 目標値 110人以上に対し、実績値 195人(集計結果より)。目標値の1.7倍と目標を大きく伸ばした要因は、教育普及担当職員等の大学訪問による勧誘や、フロント研修・事業開始前ナビ研修・作品の背景を知る勉強会等、多岐にわたる研修が功を奏したと考えられ、今後も事業運営に欠かせない有償ボランティアを維持・向上する活動に取り組みたい。		
2. 友の会(any)会員数	2. 1,400人以上。	2. 1,703人(令和6年度末時点)。	2. 目標値 1,400人以上に対し、実績値 1,703人(集計結果より)。目標値の1.2倍の成果をあげることができた。新規入会を呼びかけるチラシや申込書の配架や、年度の初めに新規加入がお得な期間を設け、チケット購入者や館内のシネマ会場などで加入を呼びかけるといった取り組みが役立っており、今後も加入者増加に向けた取り組みを継続していく。		
3. 新たなコミュニケーションの創出状況	3. 人材養成事業(YCAM Dance Crew)ワークショップ参加者へのアンケート自由回答などで、スタッフおよび参加者同士の交流や、学びの場を得たという評価を得る。	3. 人材養成事業(YCAM Dance Crew)ワークショップ参加者へのアンケート自由回答や発表の場で、スタッフおよび参加者同士の交流や、学びの場を得たという高い評価を得た。	3.参加者が互いに協力しながら、三日間で映像作品を制作するという密度の高いワークショップに加え、ダンス映像作品発表後、参加者・講師・YCAM職員が車座になり、感想や気づきを口頭で共有する時間を設けた。こうした対話の場を通じて、スタッフおよび参加者同士の交流が活発に行われ、相互の交流や学びが一層促進された。参加者アンケートの自由記述欄からも、学びの多い場であったとの肯定的な評価が多数寄せられた。今回の参加者はYCAM所在地である山口市からの参加者40%、隣接する宇部市からの参加者40%である(アンケート集計結果より)。こうした近隣の参加者から、高評価を得た事で、地域の文化拠点としての役割を担う活動となった。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

1. 有償ボランティアスタッフ(サポートスタッフ)獲得のために、募集チラシの配架を行うと共に、大学生の勧誘のため、地元大学(国立、県立)の新入生が新生活を始める5～7月に、YCAMの教育普及担当者等が40以上の授業に訪問し、冒頭10～30分程度を時間をいただき、YCAM事業紹介やサポートスタッフ活動説明をする取り組みが、功を奏している。令和6年度末の登録者総数195人の内、令和6年度新規登録者数79人(大学生53人、その他学生3人、一般23人)である。また、「サポートスタッフ研修」(令和6年度参加者数:延べ259人)として対話型鑑賞やファシリテーション等、作品を観る力をつける基本研修の他、実際に事業に紐づく研修も行い、サポートスタッフ育成を図っている。
2. 友の会(any)会員獲得のために、年度当初二カ月程度、新規入会キャンペーンとして登録費(500円)無料の期間を設けると共に、館内シネマおよび同じ財団が管理する中原中也記念館の招待券などお得な特典がついてくるとい募集チラシの配架を行っている。
3. 人材養成事業(YCAM Dance Crew)ワークショップ参加者は、ダンス映像作品発表後の発話において「3日が半年くらいに感じる充実感を得た。」や「(今回は参加者5人の内、ダンス映像作品制作は)3人のチームだったが、5人でも作ってみたいと感じた。」等、参加者にとって大きな学びの場、交流の場となったという評価を得て、新たなコミュニケーションの創出につながった。
また、アンケートでは以下のような感想が寄せられた。ワークショップに対する充実感と共に、スタッフおよび参加者同士の交流もおおいに図られ 成果をあげることができた。 - 各参加者が、端的に自分の意見を言葉にしたのが印象的、初めのコミュニケーションについてのお話と、スタッフの方々の雰囲気もあった上での良いコミュニケーションだったと思う。
- 様々なバックグラウンドがある人たちが集まり、3日間という限られた時間の中で「映像を作り上げる」ことに集中できた。
- まずは、スタッフの皆さんのアットホームな雰囲気がとても印象的でした。1日目に途中参加となってしまう、不安がありましたが皆さんの会話から想像できるチームワークと、入ってからすぐに(○○○ちゃん)と名前を呼んでくださり、その輪の中に入れているという安心感の速度は、これまで参加してきたワークショップの中で本当にダントツでした。ありがとうございます。だからこそ、参加者が少なかったことが、みんなもったいないよ！！と叫びたい気持ちです。きっと当初からダンサーやジャンルを限定せずに人を募集しても、一つの大きなコミュニティとして、サポートできるまとめられる組織であると感じます。
- すごく楽しかったです！またぜひ参加したいです！ありがとうございました！

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
1. [対象事業:「普及啓発事業「Audio Base Camp#3」 若年層(25歳以下)の入場者数。	1. 若年層(25歳以下)の入場者数が全体の8%以上。	1. 若年層(25歳以下)の入場者数が全体の9.2%。	1. 目標値8%以上に対して、実績値9.2%であり、目標達成できた(アンケート集計結果より)。また25歳以下の内、高校生は23%であった(アンケート集計結果より)。本事業「Audio Base Camp」は令和4年度、5年度、6年度と継続した実施を重ねることにより、地域や関係者との連携を深め、認知度が高まっていることに加え、入場料を細かく設定し、若年層に割安感を示すことでも、25歳以下の入場を促す結果となったと考える。		
2. アクセシビリティ(合理的配慮)研修の実施。	2. 当館職員の全職員の75%以上が受講。	2. 当館職員の全職員の84%が受講。	2. 全館休館日(令和6年4月25日)に研修実施することで、通常は、チケット販売や映画上映等のお客様対応で研修参加が難しい職員も参加が可能な日に設定したことにより、参加率を目標よりも約10%あげることができた。防災訓練は毎年行っているが、アクセシビリティ(合理的配慮)の研修は初めての試みであったが、わかりやすい座学と実習により、多くの学びを得る機会となった。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

1. [対象事業:「普及啓発事業「Audio Base Camp#3」] 本事業はYCAMの音響設備の特徴を充分生かした特徴的なレクチャーパフォーマンス。出演者と来場者の距離が近いことも特徴の一つで、その会場であるスタジオAの前のロビーや、そこに続くホワイエ等において来場者同士、または出演者と来場者が気軽に話せる雰囲気を持つ場をつくることで、交流を促した。地域の文化拠点として行った事業において若年層(25歳以下)入場者数の目標を達成できたことにより、多様性の向上に寄与できた。 入場料を以下のように細かな料金設定とし、若年層の入場を促した。 【入場料】 [デイプログラム1回券] 前売(当日): 一般 1,500円(1,800円)、any 会員/特別割引 1,000 円、25 歳以下 700円(1,800円)、高校生以下 無料(無料) [ナイトプログラム1回券] 前売(当日): 一般 2,200円(3,000円)、any 会員/特別割引 1,700 円(3,000円)、25 歳以下 1,100円(3,000円)、高校生以下 無料 (無料) [フリーパス] 前売: 一般 6,500円、any 会員/特別割引 5,000 円、25 歳以下 3,000円、高校生以下 無料 [デイプログラムフリーパス] 前売: 一般 4,500円、any 会員/特別割引 3,500 円、25 歳以下 2,000円、高校生以下 無料 [ナイトプログラムフリーパス] 前売: 一般 4,000円、any 会員/特別割引 3,000 円、25 歳以下 1,800円、高校生以下 無料
2. アクセシビリティ(合理的配慮)研修として令和6年4月25日(木)に平田真由美氏(点訳すぎなの会 会長)を講師に迎え、「《テーマ》視覚・聴覚障がいの特性をまずは知る」と題した研修を2時間行った。年間、数少ない全館休館日に研修を実施することで、通常は、チケット販売や映画上映等の来客対応で研修参加が難しい職員も参加可能な日に設定したことにより、職員の参加率を目標よりも約10%あげることができた。また、本研修は職員のみならず、有償ボランティア・スタッフとして映画上映事業に恒常的に携わっている者の参加も得て、より現場で対応が必要とされる人員の研修の場ともなった。研修内容は、座学において、視覚障がい者への案内・誘導の際には、まず名乗ってから誘導が必要かを確認するとか、代筆を頼まれ際には、記入後に必ず復唱し、内容の確認をするなど具体的な知識を得る事ができた。また、参加者同士がベアになり、視覚障がい者への案内の仕方を具体的に体験することで、実際の場面でも、対応が可能な能力向上の学びの機会となった。

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

- (1) 令和6年度の自己評価
- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保)予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。						
(イ)	(広報・営業力)広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。						
(ウ)	(他館連携)他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。						
(エ)	(設置者)円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。						
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督)芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。						
(カ)	(長期的経営)長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。						
(キ)	(専門人材の確保)今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。						
(ク)	(職制の整理)芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。						
(ケ)	(世代間バランス)年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。						
(コ)	(ジェンダーバランス)女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。						
(サ)	(ワークライフ・バランス)仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。						
(シ)	(コンプライアンス順守)情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。						
(ス)	(ハラスメント防止対策)職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。						
(セ)	(適正な契約事務)アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。						

4. 総評

・ 団体の自己評価

◆「山口市文化創造ビジョン」に掲げられた「個が輝き 次世代が芽吹く 創造文化都市やまぐち ～その先の文化と暮らしを育むまち～」の理念に基づき、市民一人ひとりが主体的に未来志向の文化活動に関わることを目指して、事業を展開した。地域の文化拠点として、創造的な活動を通じてコミュニティの発展を支える「人材育成事業」や「普及啓発事業」について、計画どおり遂行することができた。これら事業は、YCAMの中核機能である研究開発チームYCAM InterLab、すなわち、キュレーター、エド्यूケーター、エンジニア、デザイナーなど多様な専門性を持つ常駐スタッフのチームの特性も活かし、取り組んだ。

◆評価目標に掲げた「創造性・企画性」、「地域文化拠点機能」、「多様性とアクセシビリティ」といった項目において、概ね、想定通り、あるいは想定以上の成果をあげることができた。

◆人材養成事業「YCAM Dance Crew」では以下の取り組みを行った。

(1) **ダンスワークショップ**
(令和6年8月2日(金)～4日(日)、参加者5人、無料)

【内容】山口県に住むダンス経験者、映像編集に興味を持つ20代の参加者たちがチームを組み、ダンス映像の撮影・編集3日間のワークショップ。振付家／ダンサーの笹本龍史、Rion Watleyを講師に迎え、YCAMスタッフも制作に参加した。AIを使ったダンスブースや、ダンサーの周りをカメラが360° 回転するオリジナルの撮影セットなどを用い、これまでにないダンス映像を生み出した。

【成果】ワークショップ参加者の満足度は全員が「大変満足」と回答(アンケート集計結果より)していると同時に、講評においてワークショップ指導者からも高評価を得ており、ダンス表現を志す地元の若者へ創造性・企画性の高い体験機会提供が達成できた。事業のコンセプトが、SNS上でのダンスの広がりを前提としているため、活動を通じてSNS上に活動の成果が広まり、ワークショップ完成動画のInstagram再生回数は1.5万再生を超えた。

【本助成事業外の成果】今回の事業が評価され、以下のイベント出展の依頼を受け、ダンスイベントブース設置を行った。県外の多くの方に触れてもらうことで認知度向上に繋がった。
「YCAM Dance Crew in 光の広場」
令和6年11月9日(土)～11日(月)、久屋大通公園 光の広場(愛知県名古屋市)

【課題】評価項目において、参加者人数が想定をかなり下回った。募集定員20名に対して目標値をその半数としていたが、参加者は5人となった。募集対象を「15歳～29歳のダンス経験3年以上のダンサー」とし、映像に関心のある方々へ向けて訴求を行ったが、山口市周辺地域において該当者が想定よりも少なかったことが、主な要因と考える。情報の周知自体は一定程度行き渡っていたものの、市内他催事との日程重複や、対象者やその周辺の方々にとって本企画が「ハードルの高いイベント」として受け取られていた可能性がある。今後は、市内で活動している若手ダンサーへの継続的なヒアリングを通じてニーズを把握しながら、募集条件や企画設計の段階で心理的・実務的ハードルを下げる工夫を取り入れていきたいと考える。

(2) **ダンス映像ブース**
(令和6年6月29日(土)～11月10日(日・祝)、参加者4,340人、無料)

【内容】新規開発のAI使用の新ダンスブースと、過去に開発した映像エフェクトがつけられるダンスブースの両方を、YCAMのオープンスペースに設置。AIが踊る人を学習し、リアルタイムに映像を生成することで、踊る人の想像力をさらに刺激するダンスブースを目指し開発した。体験者がプロンプト(指示文)を入力することで、モニターに映る身体がプロンプトに応じた姿に変化するブースとなった。

【成果】ダンス経験の有無を問わず多くの来館者が体験した。また、AIを使用した新ダンスブースでは、ダンサーに限らず、家族連れや小さなお子さんにも多く楽しまれ、メディアとダンスの関係を探る当館での取組を、広く一般化した形で紹介することができた。

◆人材養成事業「Audio Base Camp #3」では以下の取り組みを行った。
(令和6年10月11日(金)～14日(月・祝)、入場者401人、有料)

【内容】アーティストでサウンドエンジニアの大城真を監修者に迎え、アーティストやエンジニアなどのさまざまな専門家が、自作の楽曲や、サウンドアート、レコーディングなどのテーマに応じて多種多様な録音物を紹介する「デイプログラム」と、経験豊富なDJが、高品質な環境でのリスニングを前提とした楽曲を選ぶ「ナイトプログラム」に分けて、9つのプログラムを実施した。近年、欧米を中心に増加傾向にあるリスニングイベントを、日本音響家協会が運営する「優良ホール100選」に選出されたホールであり、サウンドインスタレーション作品の発表などにも使われる当館のスタジオAで開催することで、高いクオリティの体験を来場者に提供した。

【成果】多様なテーマに基づくプログラムの豊富さから出演者がキュレーターからDJ、エンジニアなど多岐に渡っており、出演者のバックボーンの多様さに比例して、「音」「音楽」に関する広範な関心を持つ人々が集まった。また、会期中は国内の音楽レーベル＋レコードショップが集まり物販をおこなったため、ただ音楽を聴くだけでなく、音楽を集める、音楽について話すという裾野の広さも担保した。特殊な録音技術やサウンドアートの歴史など、取り上げたテーマに関する来場者の理解を高めることができた。アンケートの自由回答においても「全てのデイ/ナイトプログラムに参加しましたが、素晴らしいものだらけでした。色々な音楽に対するアプローチがあると、興味が尽きない内容でした。また次回も楽しみにしております。」と、非常に満足度の高いコメントが寄せられている。

【本助成事業外の成果】会期中には国内屈指のDJが山口に集まるため、当館でのイベントを開催していない時間帯に、山口市内や周辺のミュージックベニューにおいて、連動したかたちでDJイベントが開催され、そうしたイベントがサテライト的な役割を果たし、本イベントへの流入を促した。また、昨年と同様、ここでの発表したパフォーマン스가、海外のレーベルや放送局で配信されるなどの事例が生まれた(11月3日にイギリス・プリストルのNOODS RADIOで、本イベントで発表したTSUNAKI KADOWAKIのパフォーマンスが放送された)。ほかにも本イベントがきっかけとなり、昨年と同様に、山口県内のミュージックベニューにおいて、出演者がイベントを開催するなど、地元の音楽関係者との交流を深めるなどした。

・ 所見

